

観光社会資本の事例

テーマ	新潟港の夕日スポット 入船みなとタワー・山の下みなとタワー	
【施設の状況写真】		
		
入船みなとタワー。大階段に腰掛け、西港を行き来する船を眺める。	入船みなとタワーから対岸の山の下みなとタワーを望む。この2つは海底トンネルで結ばれている。	
【施設の利用写真】		
		
山の下みなとタワーから望む入船みなとタワーと夕日。	入船みなとタワー展望室。	
【観光資源としての利用状況】		
<p>新潟みなとトンネルの換気塔「入船みなとタワー」と「山の下みなとタワー」は、日本で初めての市民開放型の換気塔です。</p> <p>両タワーともに最上階に展望室があり、新潟市内や新潟西港、晴れた日には佐渡も眺めることができます。日本海に沈む夕日を一望できるスポットとして親しまれており、季節ごとの日没時間に合わせて閉館時間が設定されています。年末年始のみ休館となります。</p>		

テーマ	新潟港の夕日スポット 入船みなとタワー・山の下みなとタワー
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>○名称 入船みなとタワー・山の下みなとタワー(新潟みなとトンネル立坑換気塔)</p> <p>○所在地 新潟県新潟市(信濃川左岸入船地区、右岸臨港ふ頭地区)</p> <p>○事業名 臨港道路入船臨港線</p> <p>○事業主体 国土交通省(北陸地方整備局)</p> <p>○事業期間 昭和62年～平成17年</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>新潟みなとトンネルは、信濃川の河口部にある1,423mの海底トンネルです。近接する空港の飛行制限や航行船舶への配慮などから、日本海側初の沈埋工法が採用されました。</p> <p>昭和62年に事業に着手し、平成14年に一部供用が開始され、平成17年7月に全線供用されました。</p> <p>トンネルの開通により、臨海地域の利便性が向上するとともに、新潟市中心部の交通混雑の緩和にも役立っています。</p>	
<p>【位置図】</p>	
<p>【関連ホームページ】</p> <p>北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所 http://www.pa.hrr.mlit.go.jp/niigata/</p>	